

<速報※> 子育てについてのアンケート 集計結果

～地域子育て支援拠点・親と子のつどいの広場の利用と地域への関心・愛着との関係～

実施主体；横浜市地域子育て支援拠点/横浜市

研究協力；近本聡子（公財 生協総合研究所）堀聡子（東京福祉大学短期大学部）相馬直子（横浜国立大学）

実施期間；2017年12月、2018年1月、4月

対象；横浜市18区3歳児健診受診家庭

配布；4,875枚 回収；3,956枚（回収率；81.1%）

※今後別途報告書の作成・公表を予定しています

✓ 地域子育て支援拠点・親と子のつどいの広場を知っている人は91.3%

「地域子育て支援拠点・親と子のつどいの広場（以下、拠点・広場）を一つでも知っていますか？」という問いに91.3%の人が「知っている」と回答しました。

過去に横浜市で実施した同様の調査でも、知っている人の割合は大幅に上昇しています。乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん訪問）などの、市や区の関連施策での継続的な広報活動により、着実に子育て家庭に知られる存在になってきていると考えられます。

拠点・広場認知度

(N = 3956)

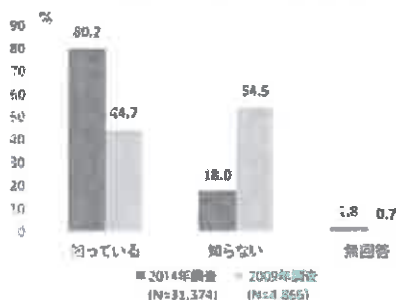


参考：横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査（2014年調査）

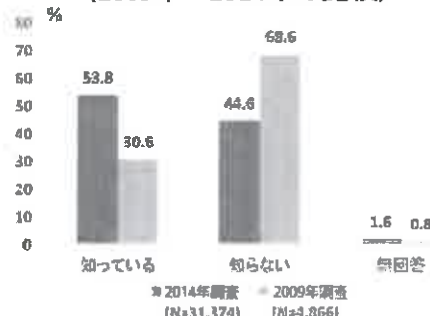
地域子育て支援拠点を知っている；44.7%（2009年度）→80.2%（2014年度）

親と子のつどいの広場を知っている；30.6%（2009年度）→53.8%（2014年度）

「地域子育て支援拠点」の周知
（2009年・2014年の比較）



「親と子のつどいの広場」の周知
（2009年・2014年の比較）



過去のニーズ調査からみても、知っている人の割合は徐々に増えているんだね。



参考値

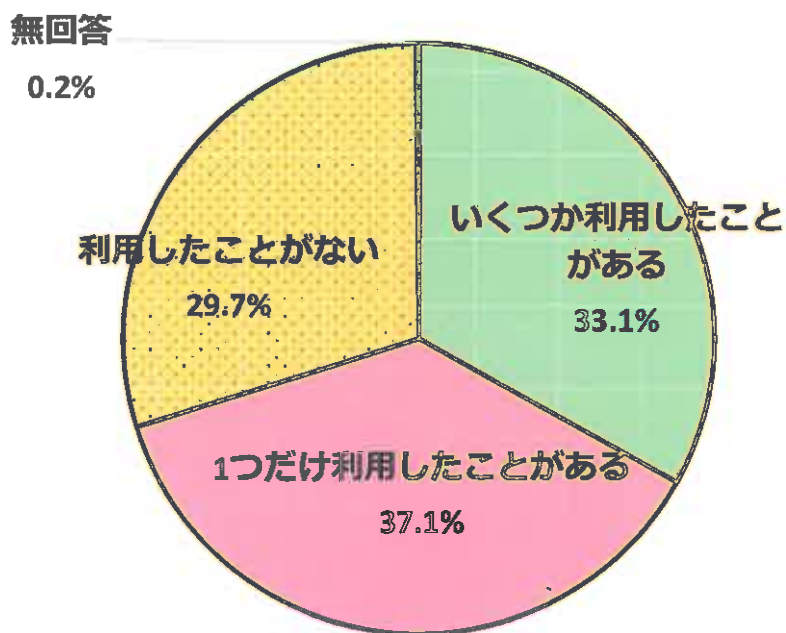
横浜市ニーズ調査（2014年実施）より <http://www.city.yokohama.lg.jp/kodomo/shien-new/data/needs/needs-02.pdf>

✓ 実際に拠点・広場を利用したことがある人は 70.2%

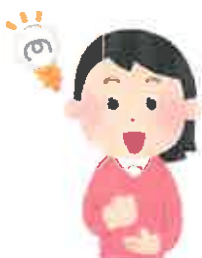
拠点・広場を「知っている」と回答した人のうち、「拠点や広場を実際に利用したことがありますか？」という問いに対しては、「いくつか利用したことがある（33.1%）」、「1つだけ利用したことがある（37.1%）」と、7割以上の人々が拠点や広場に一度でも足を運んだことがあると回答しました。

また、いくつか利用したことがある人、1つだけ利用したことがある人、利用したことがない人がほぼ3割ずつという興味深い結果となりました。

拠点・広場利用経験 (N=3612)



拠点・広場は、どこでも同じってことはなく、場の雰囲気やつくり、開催されているイベント等、拠点・広場それぞれに独自性の高い特徴があるから、気に入った1つの場に通い続ける親子もいれば、目的や通いやすさなどで利用する場を使い分ける親子もいるのかもしれないね。



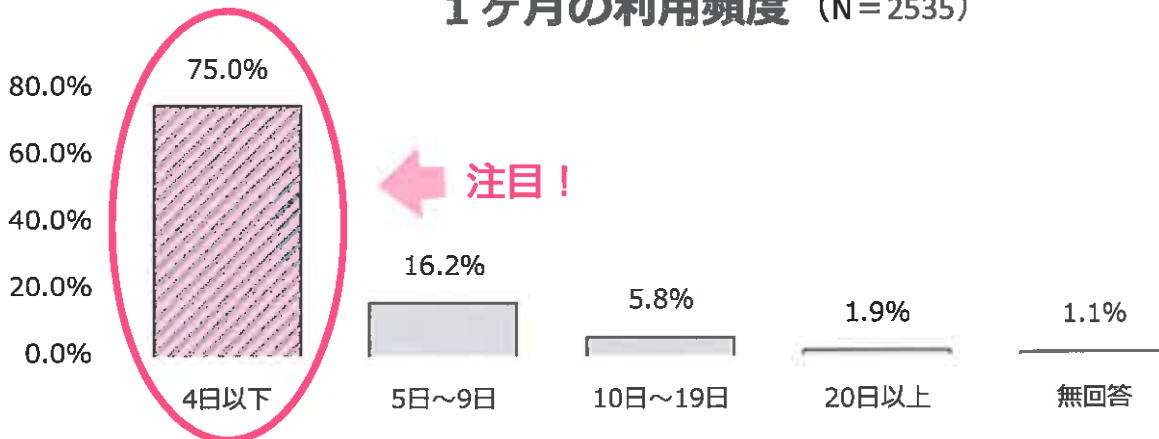
拠点・広場を利用したことがない親子や、1つだけを利用する親子、いくつかを利用する親子、それぞれのニーズに応じたひろばづくりが求められるね。

また、利用したいと思っているのに利用できない親子がいるなら、拠点や広場に来てもらうために何ができるか考えることも大事だね。

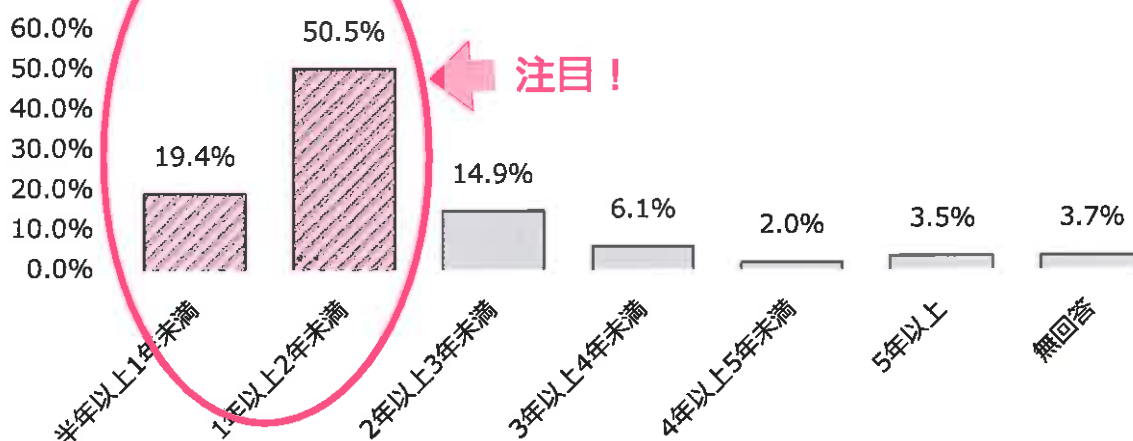
✓ 利用頻度は“月4日以下”、利用期間は“2年未満” の人が大半 スタッフと利用者の、新たな出会いの連続

拠点・広場を「利用したことがある」と回答した人のうち、拠点や広場の利用頻度についてたずねたところ、75.0%の人が月4日以下の利用でした。また、利用期間に関しては、利用者全体の69.9%が2年未満の利用（19.9%は1年未満の利用）でした。参考までに、子ども一人のみ家庭（827人）に限ると、80.3%が2年未満の利用でした。

1ヶ月の利用頻度 (N=2535)



利用期間 (N=2535)



拠点や広場で日々親子と接している実感と比べて利用期間も頻度も少ない印象があるけど、これが実際なんだね。

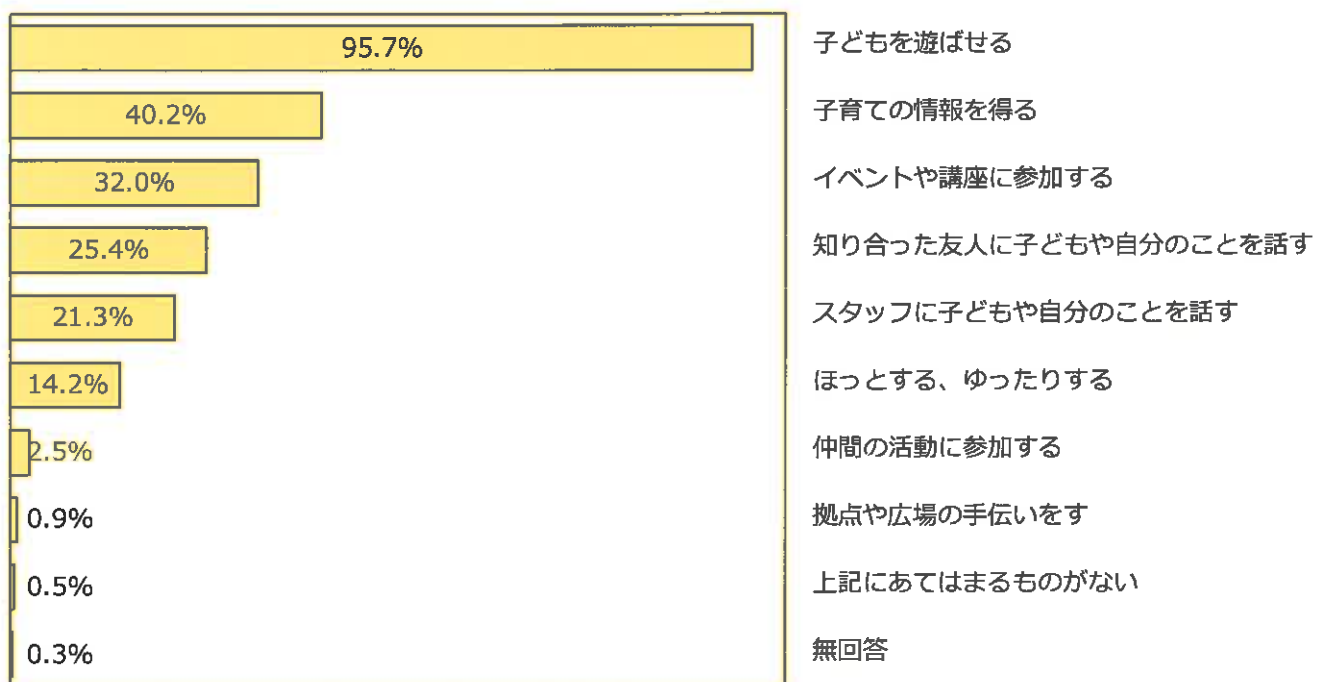
常連として利用する人が多いと思われるかもしれないけど、そうでもないってことだね。新しく来館する人も、あまり不安に思わず来てもらいたいね。

スタッフは、毎日、違う親子と違う会話をする機会が多くなっているってことだね。

✓ 利用目的は“子どもを遊ばせる”だけではない “子育ての情報を得る”ため

拠点・広場を「利用したことがある」と回答した人のうち、「拠点や広場をどのように利用していましたか？」という問い（複数回答）に対しては、「子どもを遊ばせる（95.7%）」に続き、「子育ての情報を得る（40.2%）」が2番目に多く、以下「イベントや講座に参加する（30.0%）」「知り合った友人に子どもや自分のことを話す（25.4%）」「スタッフに子どもや自分のことを話す（21.3%）」となりました。

利用の目的（複数回答）（N = 2535）



インターネットを介した子育て情報が増えているけど、拠点・広場に直接来ること、自分の知りたい情報や、そこでしか得られない口コミを得たい、という期待があるのかもしれないね。



スタッフには、溢れる子育て情報の中から、それぞれの利用者のニーズに合わせた情報を選んで伝えることが求められるね。

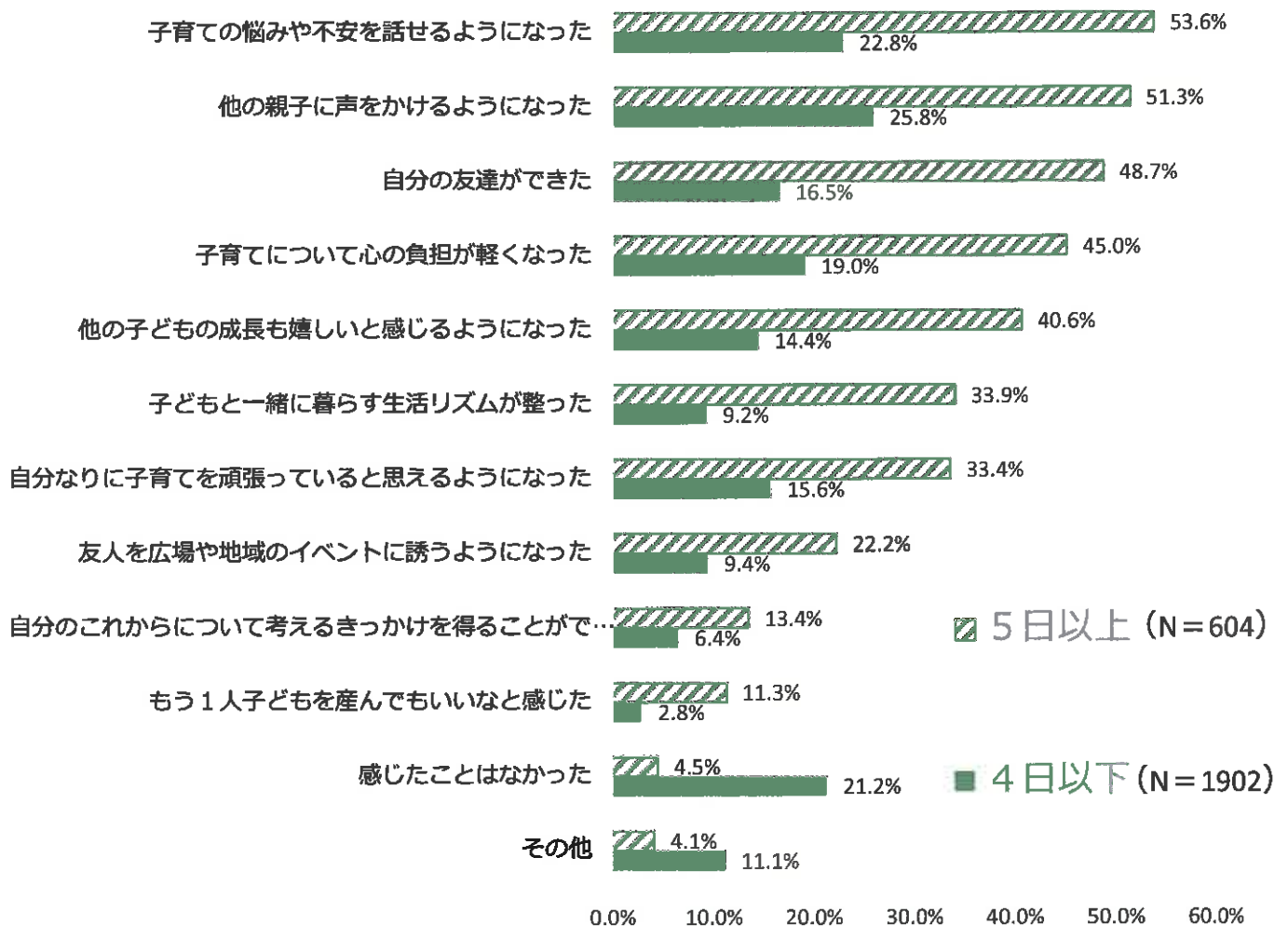
✓ 拠点・広場を一定頻度利用することで、 子育てに対しての心境や行動の変化が起きやすい

拠点・広場を「利用したことがある」と回答した人のうち、「拠点や広場を利用して何か感じたことや変わったことはありますか」という問い（複数回答）に対しては、利用頻度によって結果に差がありました。

利用頻度の比較的少ない層（月4日以下）については、「他の親子に声をかけるようになった（25.8%）」「子育ての悩みや不安を話せるようになった（22.8%）」と1/4程度の人がそうした変化を感じていました。

一方、利用頻度の比較的多い層（月5日以上）については、それぞれ同じ項目で「子育ての悩みや不安を話せるようになった（53.6%）」「他の親子に声をかけるようになった（51.3%）」と、半数を超える人が子育てに対する変化を感じていました。

利用を通して感じたこと変わったこと（1ヶ月の利用頻度別）



拠点や広場をある程度の頻度で利用することで
心境や行動の変化が出てくるのかもしれない。



✓ 拠点・広場の利用頻度が、地域との関わりに対する親の気持ちに変化を与えている


「子育てを通して変わったところがありますか？」という問いに対しては、拠点・広場の利用有無と頻度によって結果に差がありました。

子育てを通じた親の変化を確認した15の設問項目について、その内容により、「A ; 地域との関わり（に関する変化）」「B ; 他者との関わり（に関する変化）」「C ; 仕事や趣味への考え方（に関する変化）」の3つに分けました。


その結果、「A ; 地域との関わり」の項目は、いずれも、拠点・広場を利用したことがないよりもあるほうが、利用したことがある人の中でも月4日以下の利用よりも、月5日以上の利用のほうが、変化を感じている回答の割合が高くなりました。

次のページの注目ポイントです！！

一方で、BとCについてはAと比較し、拠点・広場の利用頻度による差はみられませんでした。



拠点や広場は、地域への関心や愛着を高める大事な場所なんだね。



子どもが乳幼児期に拠点・広場を一定頻度利用した人は、拠点や広場の中だけじゃなく、自分たちが住む地域に対しても、気持ちの変化がみられるね。子育てを通して、地域との関わりに目を向けたら、親同士の支えあいの大事さを感じとっていく場にもなっているのかもしれないね

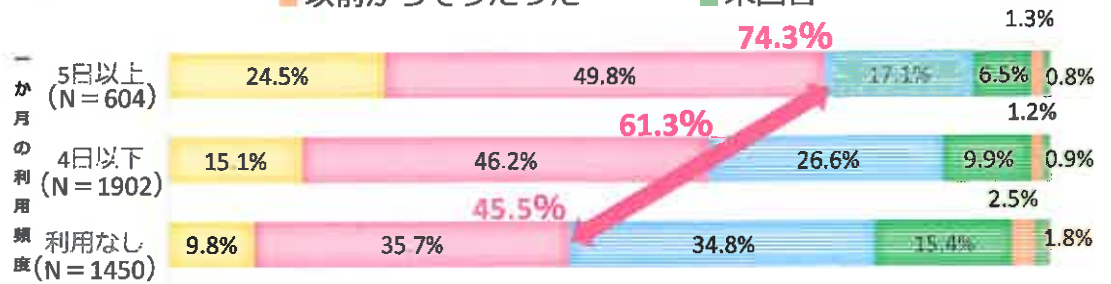
子育てを通して変わったところ (A：地域との関わり)



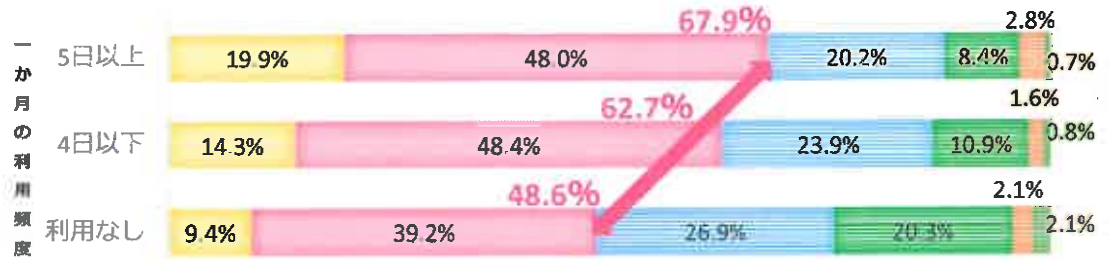
ここに注目！

- よくあてはまる
- あてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない
- 以前からそうだった
- 未回答

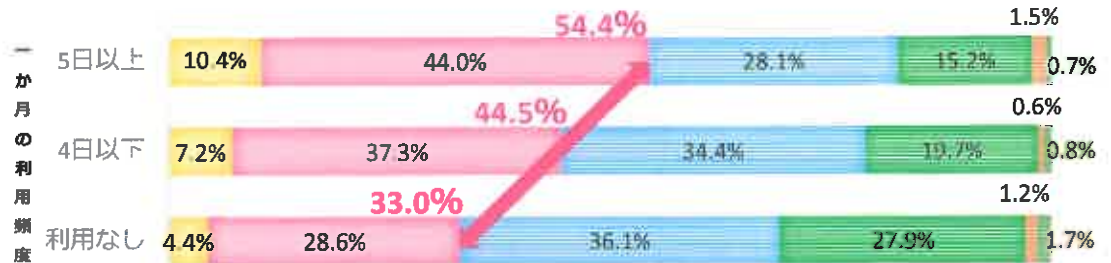
地域に子育てを助けてくれる人がいると思えるようになった



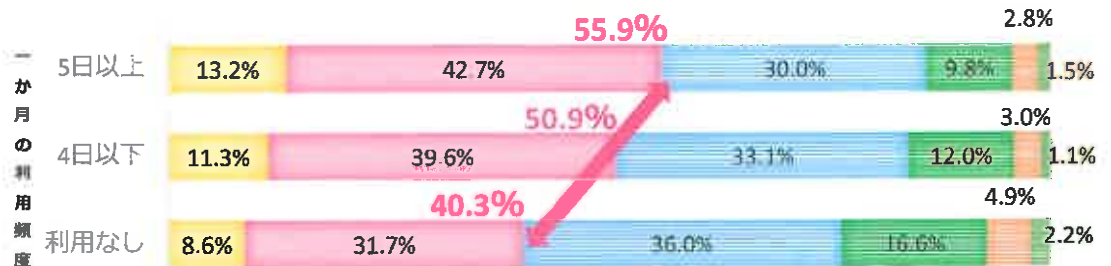
地域の行事やイベントに参加するようになった



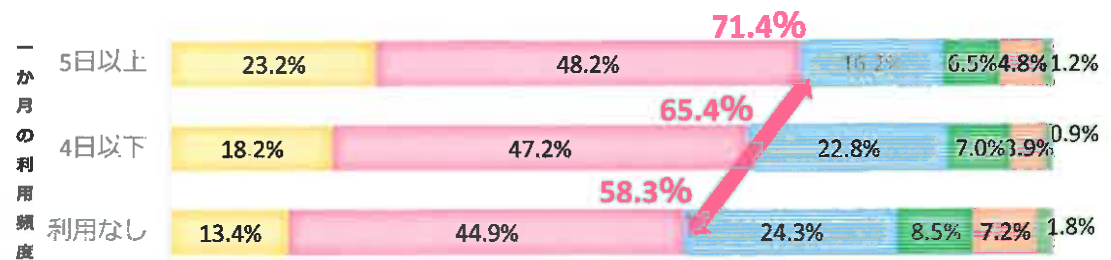
子育てサークル活動やママ・パパ友づきあいに興味をもつようになった



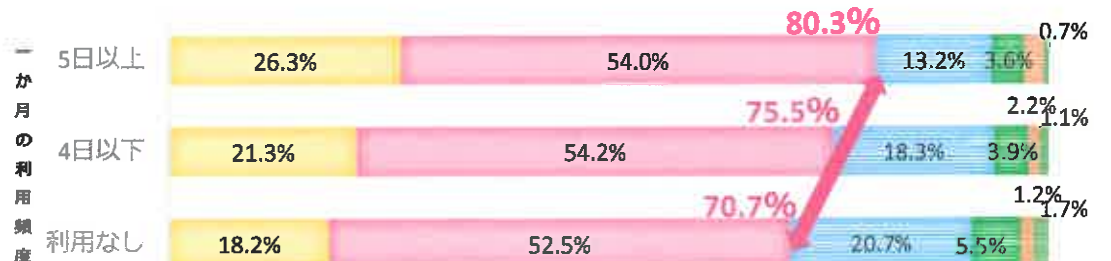
近所づきあいは楽しいと感じるようになった



この地域に長く住み続けたいと思うようになった



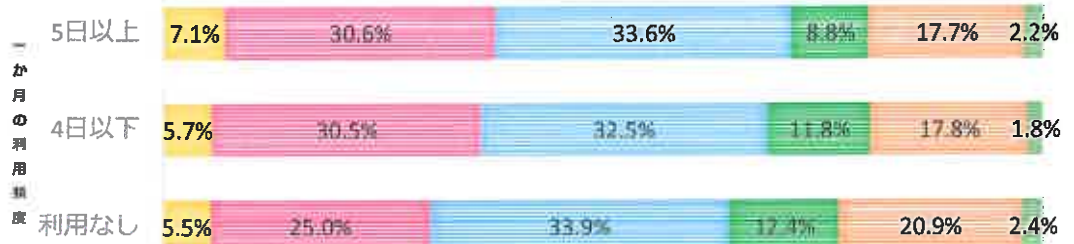
子育てに関わる行政の制度に興味を持つようになった



子育てを通して変わったところ (B：他者との関わり)

- よくあてはまる
- あてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない
- 以前からそうだった
- 未回答

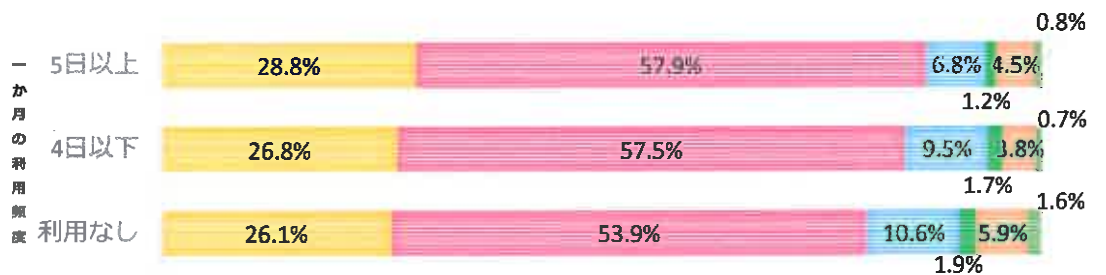
気軽に自分のことを話せるようになった



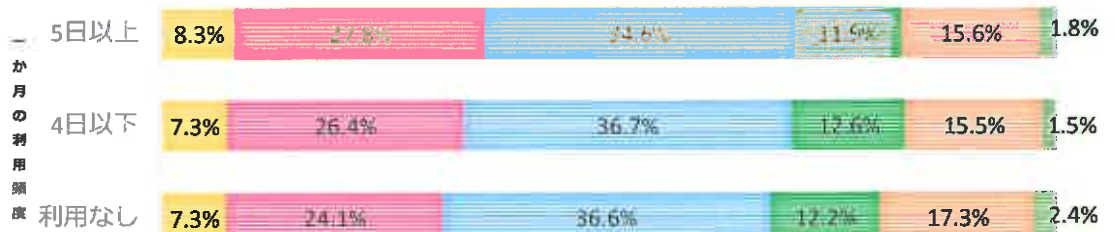
わが子の成長には、親以外の大人の力が欠かせないと感じるように



他の親子に対しても助けてあげたいと思うようになった



母親は育児に専念するべきと思わなくなった

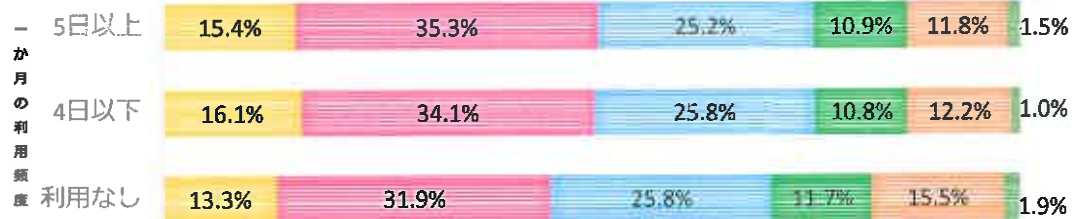


0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

子育てを通して変わったところ (C：仕事や趣味への考え方)

■ よくあてはまる ■ あてはまる ■ あまりあてはまらない
■ あてはまらない ■ 以前からそうだった ■ 未回答

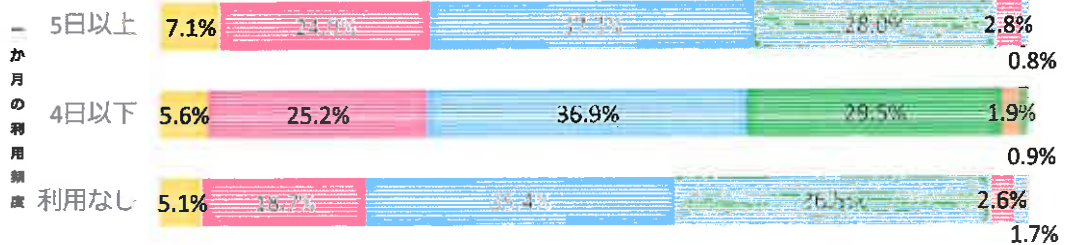
働きたいと思うようになった



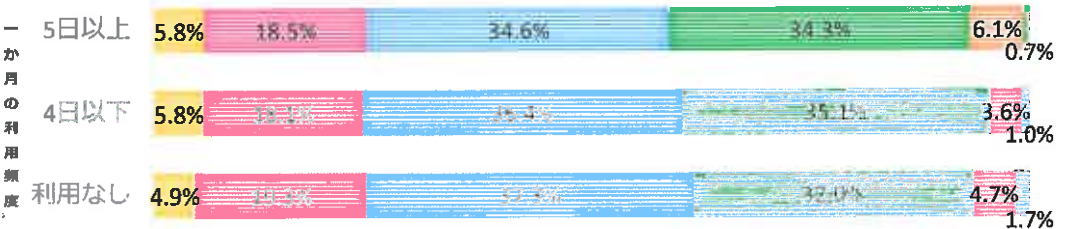
自分の働き方を考え直すようになった



子育てで経験したことを仕事としてやってみてなくなった



子育て以外にも趣味や学びの時間を楽しめるようになった



何よりも子どもの成長や進路のことを優先するようになった



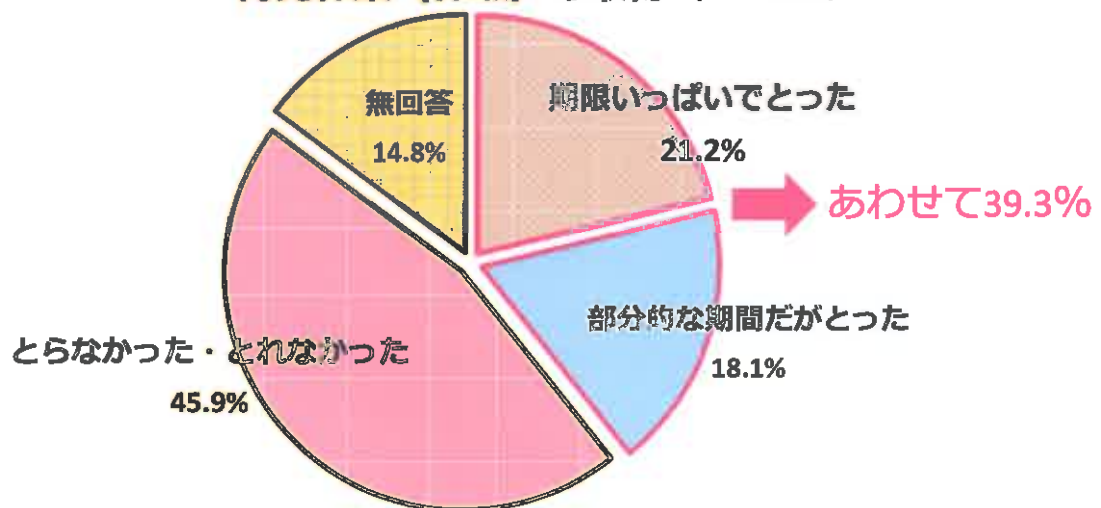
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

✓ 育児休業（以下、育休）を通じた親の心境と、拠点・広場に求められる視点

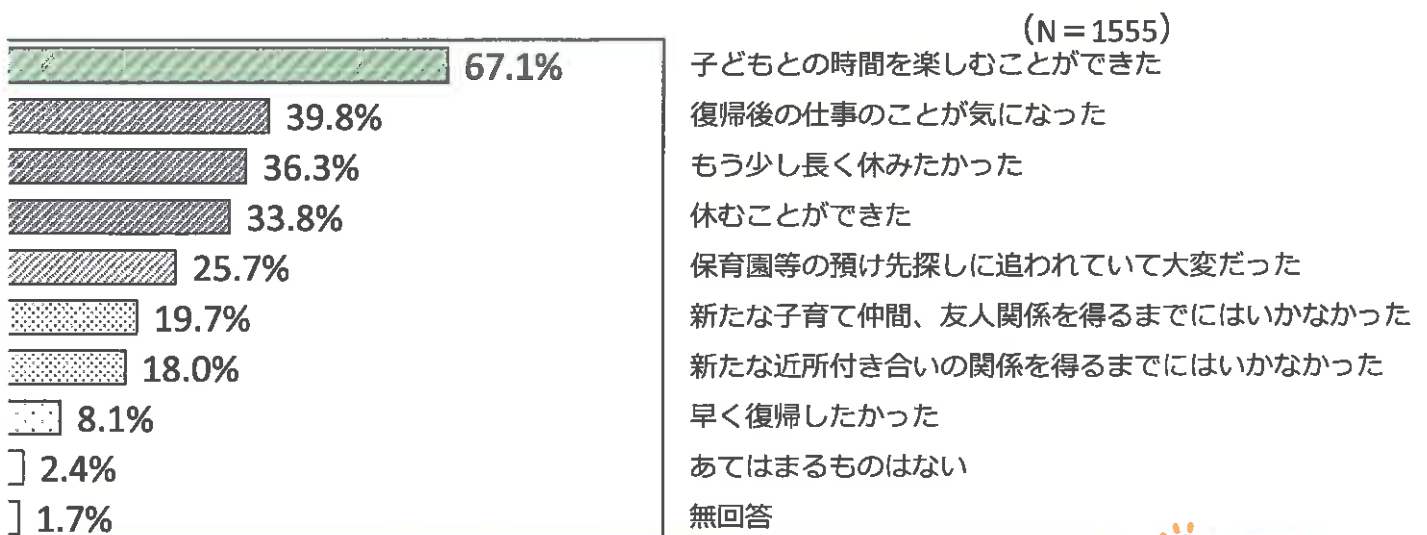
「本日健診の3歳の子どもについて育児休業（休暇）をとったか」の問いに対しては、39.3%が「取得した」（うち、「期限いっぱいだった 21.2%」「部分的な期間だがとった 18.1%」）と回答しました。「取得した」と回答した人のうち、「育休後のあなたのお気持ちについて教えてください」という問い（複数回答）に対しては、大半の人が「子どもとの時間を楽しむことができた（67.1%）」と回答しました。

一方で、「復帰後の仕事のことが気になった（39.8%）」「もう少し長く休みたかった（36.3%）」が続き、育休を満足に過ごせたと感じられないまま復職時期をむかえている人も一定数いました。さらに、「保育園等の預け先探しに追われていて大変だった（25.7%）」と、1/4程度の親にとって、保育園探しが育休中の大きな心配事になっていることも懸念される結果となりました。

育児休業（休暇）の取得（N = 3956）



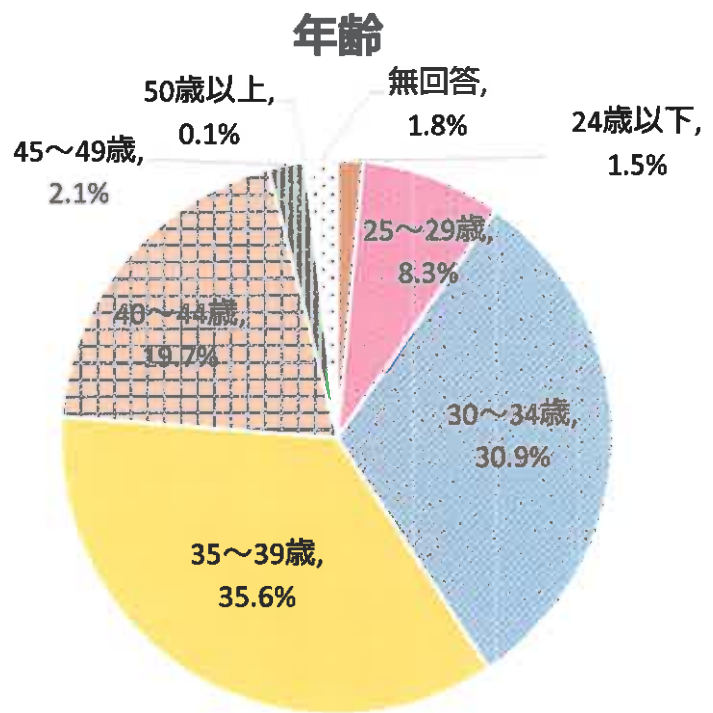
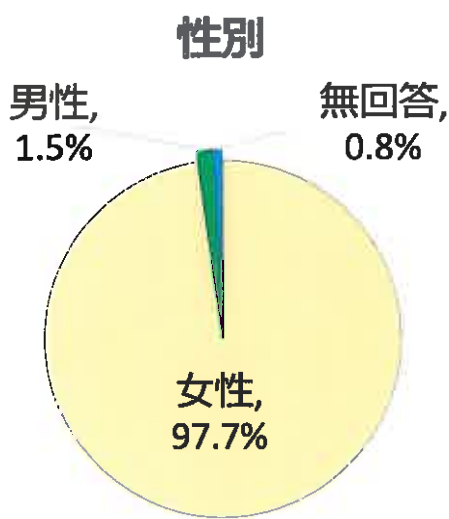
育児休業後の自分の気持ち（複数回答）



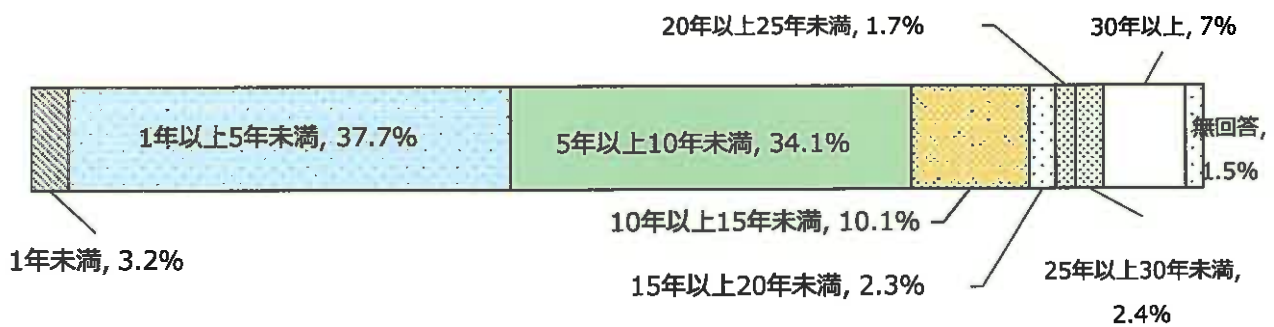
復帰後のことや、保育園探しが育休中の大きな心配事になっているんだね。スタッフはその心配に寄り添いながらも、地域や他の人との関わりに目を向けられるよう支えていけるといいね。



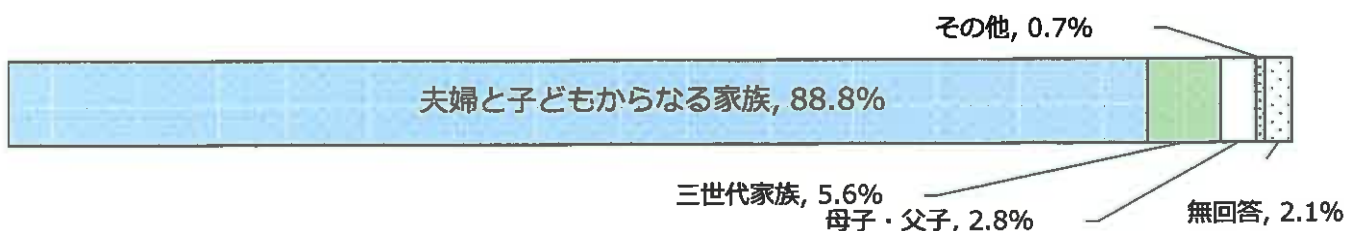
● 回答者のプロフィール（年齢・性別・居住年数・家族構成） (N=3956)



現在の居住区での居住年数

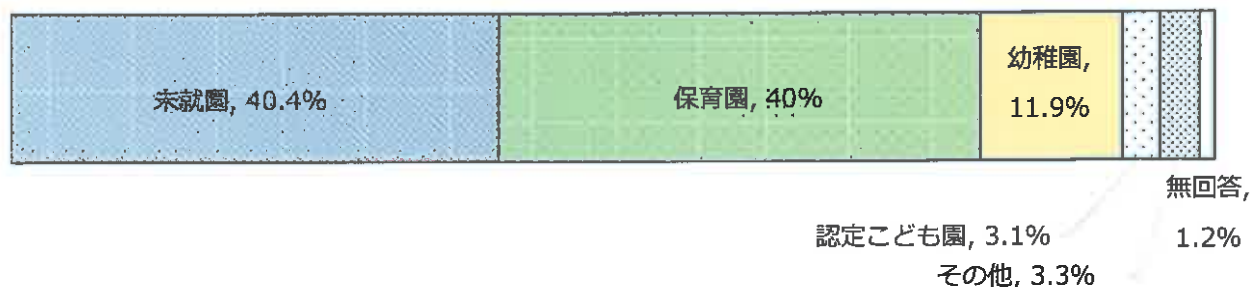


家族構成

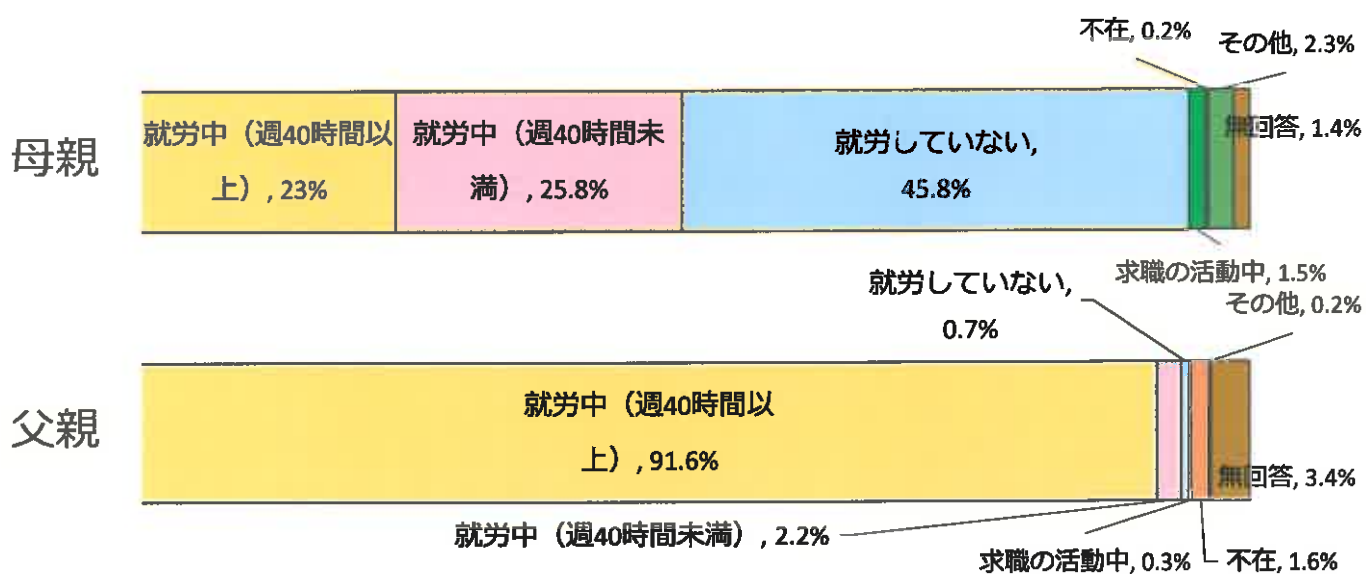


● 回答者のプロフィール (N=3956)

3歳児健診受診のお子さんの就園状況



親の就労状況

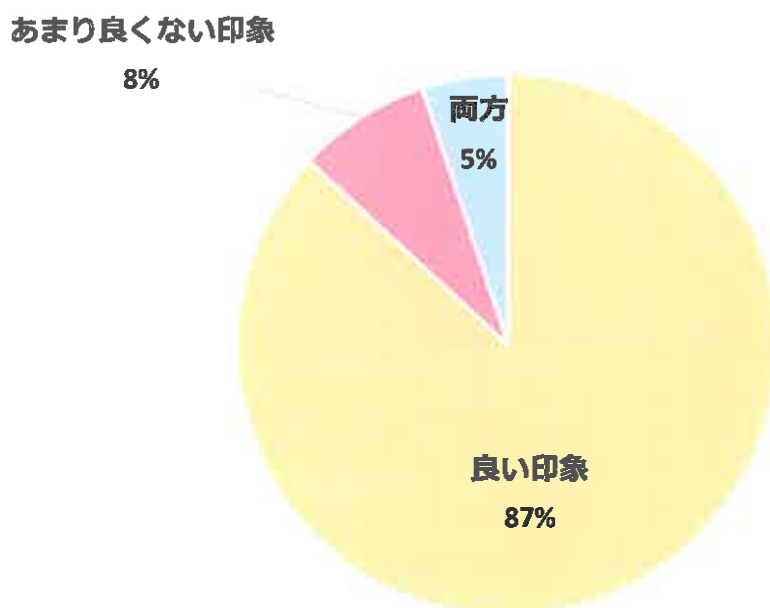


✓ 子育てを通じた地域の人との印象に残るエピソードは 87%が良い印象の内容

「子育てを通して地域の人と関わったことで印象に残っていることはありますか」という問い（自由記述）について、その記述内容を詳しく分析したところ、興味深い結果が出ました。エピソードの内容から、受けた印象／エピソードの対象／内容に分類しました。また内容についてはさらに良い印象/良くない印象に分類し数値化しました。

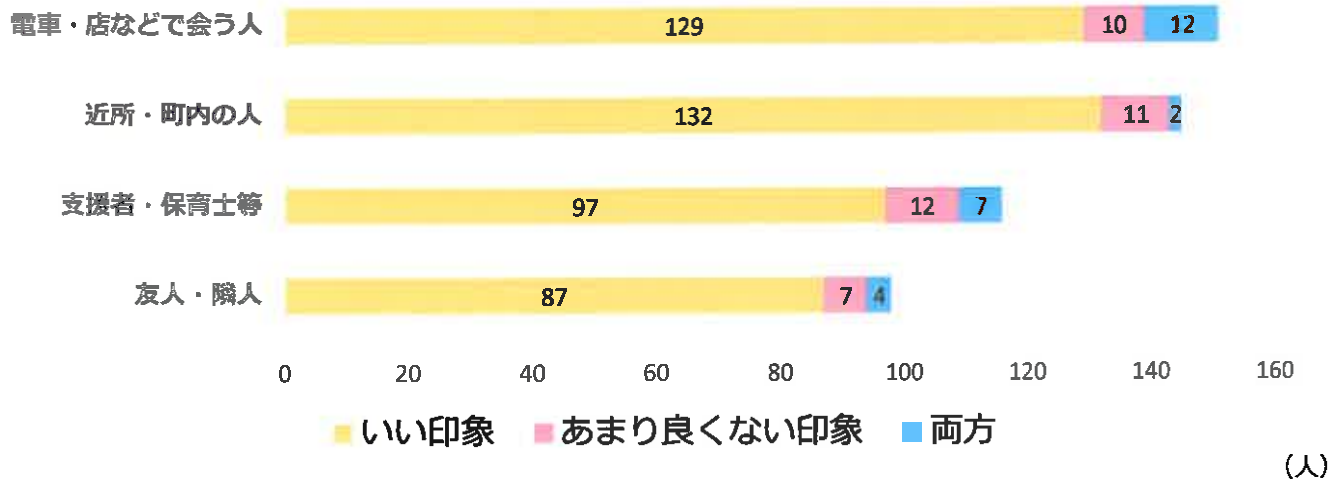
【受けた印象】については87%が「嬉しかった」「頑張ろうと思った」と、良い印象の内容が書かれていました。

受けた印象について (N=528)

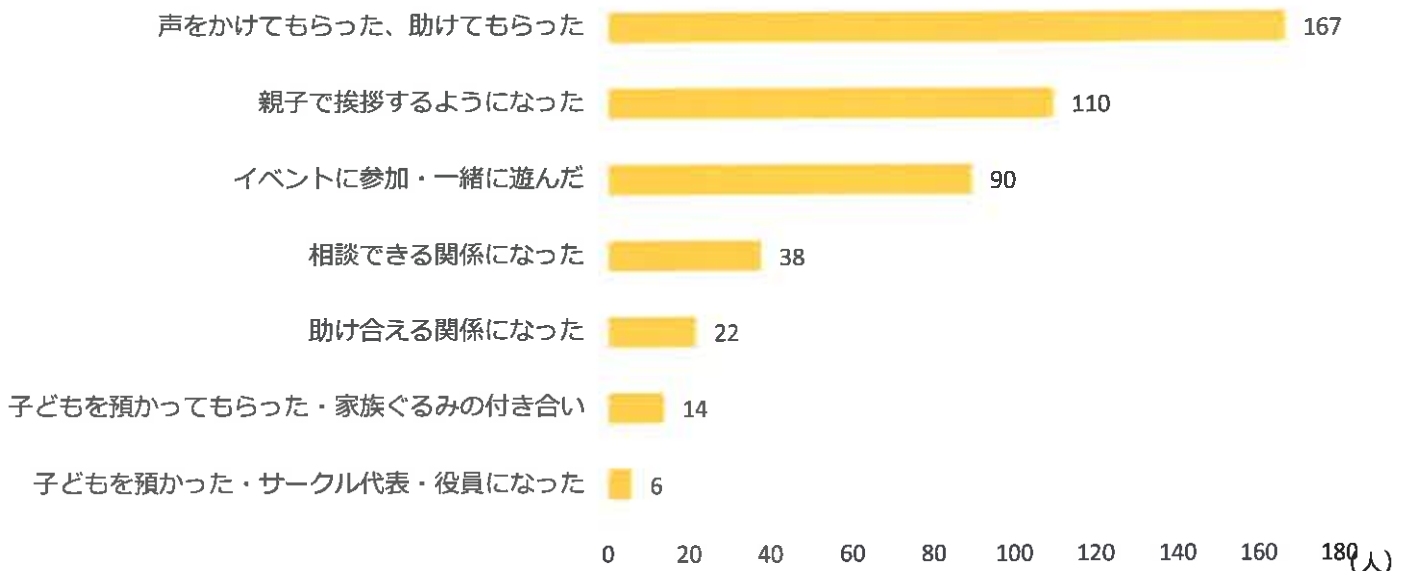


見ず知らずの人に挨拶や励ましてもらう等「声をかけてもらった」人が167名と多く見受けられ、また子育てをきっかけに近所の人やお店の人と挨拶をする機会が増えたと答えた人が多くいました。

エピソードの対象



エピソードの内容（良い印象）



エピソードの内容（良くない印象）

